

# 最後の戦いチームが一に

予選リーグを無敗で通過し、決勝トーナメントもすべて2点の差を以て順調に決勝へと進んだ駒大イレブン。大会前に右足首を骨折し、不運にも出場機会がなかったキャプテン鈴木祐も驚異的な回復でピッチに立った。強風、大雨と荒れた天気となつてしまつたが、待ちに待った国立の舞台は、やや駒大ペースで幕を明ける。

相手陣地でボールを回しゴールを狙う駒大に対し、立命大も果敢にシュートを放つ。16分、シュートを打たれ危なかつた所は鈴木祐がクリアする。22分にも隙を与え、ボールを持って独走する相手を止める事ができない。しかし、放たれたボールは大きくバーを越えた。駒大の反撃が始まつたのは26分。筑城からのパスを赤嶺がクロスに変えて中嶋へ。中嶋は頭で左隅にゴールを決める。波に乗る駒大。29分、速攻から赤嶺、関と繋ぎ最後は「狙つていた」という鈴木亮がミドルレンジから決める。33分には赤嶺、36分には小林亮のゴールが決まる。10分間に4点を入れるゴールラッシュとなつた。「前半は非常に良い戦いだった」と秋田監督も納得のいく形で後半へ。

しかし4点差で気の緩みが出てしまつたのか46分、立命大石田がゴール前まで独走。前に飛び出た太をかわり、得点を許してしまう。56分にはPKを与えてしまうピンチ。しかしボールはバーを越え駒大は運を味方につける。このPK失敗をきっかけに駒大はリズムを取り戻し、88分中後のボールが相手に当たり再び中後。待つていた原にクロス。原は頭で決めダメ押しした5点目を入れる。終了間際に立命大若菜にファイナリストの意地のゴールを入れられてしまうが、追撃ならず試合終了。

今年度大臣杯を制したものの天皇杯、リーグ戦は不甲斐ない結果となつてしまつた。インカレにける想いは並々ならぬものがあつたに違いない。「4年生と笑顔で終わった事が何より」（鈴木亮）というように最後は見事素晴らしい結果を残した。来年度はどんな感動を見せてくれるのだろうか。これからもサッカー部の躍進が楽しみである。

(山本麻紗子)

# 雨の中、信念貫き 4度目の栄光に輝く！！



試合終了に歓喜の和を作る4年生。結束力が勝利を呼び込んだ

平成16年度 第53回 全日本大学サッカー選手権大会



KOMAZAWA  
×  
RITSUMEIKAN

第53回日本大学サッカー選手権大会 決勝トーナメント 決勝

# 駒澤大学5 - 2立命館大学